

四川大地震で活動

医師らが講演

AMDA

5月に起きたミャンマーのサイクロン、中国・四川大地震の被災地で、国際医療NGO「AMDA（アムダ）」（本部・岡山市）の支援活動に携わった医師らによる講演が31日、岡山市奉還町の岡山国際交流センターで行われた。県立大大学院の公開講座として開かれ、市民ら約40人が熱心に聞き入った。

四川大地震の被災地に派遣された岡山大学院医歯薬学総合研究科の汪達紘助教は、被災者らのカウンセリングや外科診療に力を入れたことを報告。「人生経験の豊富な高齢者の方が、若者よりも災害によるストレスに強いことを知った」「災害発生から2週間ほどたつと、被災者の心のケアが大切になってくることを強く感じた」などと話し、受講者らはうなずきながらメモを取っていた。

ミャンマーのサイクロンの被災地に派遣された医師らも、経験を語った。

受講した吉備国際大4年矢田尚子さん(22)は「サイクロンも大地震も世間では忘れられているような気がするが、過去の話ではないと感じた」と話していた。